

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第3回諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

① 今年度の地域活動支援事業の審査の振り返りについて

② 今後の取組について

1) 諏訪区の概要について

2) 自主的審議について

3 開催日時

令和2年7月28日（火）午後7時から午後8時30分まで

4 開催場所

諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・ 委 員：川上 俊一、川上 奈津子、川上 久雄（会長）、川室 光昭、西嶋 明子、
服部 幸雄、星野 実、堀川 悦郎、山岸 愛、山岸 真也、山田 勝也、
山田 哲平（副会長） （欠席なし）

・ 事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【藤井係長】

・ 会議の開会を宣言

・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務

めることを報告

【川上会長】

- ・会議録の確認：川室委員に依頼

次第2 議題「(1) 協議事項」に入る。最初に「① 今年度の地域活動支援事業の審査の振り返りについて」事務局に説明を求める。

【藤井係長】

- ・資料1に基づき説明

【川上会長】

今ほどの説明について質疑を求める。

(発言なし)

それでは今年度の審査について振り返る。最初に提案状況についてである。今年度は9件の提案があり、提案件数としては昨年度と同数であった。応募期間は4月1日から24日までの24日間。提案団体については、昨年度提案があった「くびきの諏訪スポーツクラブ」からの提案がなく、新たに「雄志中学校区青少年育成会議」から提案があった。必ずしも提案数が多ければよいというわけではないが、来年度に向けて改善すべき点や、こんな提案があればよかったという意見、また感想でも構わないので発言願う。

【堀川委員】

前回の協議会で今年度は追加募集を実施しないと決めた。すでに決まったことであるため異論はないが、個人的な感想としては、地域の活性化を考えると今後この9件の提案数を下回らないことが望ましいと思う。ただ提案が多ければよいというわけではないが、もう少し多くの団体から提案していただけるように我々としても努力していかなければならないと思っている。

【川上会長】

せっかくの配分額であるが今年度は約110万円の残額が出て、今回は追加募集を実施しないこととした。来年度以降は配分額をできるだけ使い切り、諏訪区のためにうまく活用できるよう皆さんからも様々な団体に提案していただきたい。

【山岸 愛委員】

雄志中学校区である津有区や高士区、その他の区の追加募集の実施の状況について

知りたい。

【川上会長】

事務局から説明願う。

【本間センター長】

雄志中学校区では、津有区は残額が 42 万 7 千円で追加募集を実施せず、高士区は残額の 55 万 5 千円で追加募集を実施する。その他、当センターの所管区では、春日区は残額の 167 万 4 千円で追加募集を実施し、新道区は残額の 546 万 7 千円で追加募集を実施するという状況である。

【川上会長】

新道区は追加募集を実施することとしたのか。

【藤井係長】

新道区では、追加募集の審査に時間がかかることで自主的審議が進まないことや、当初募集と比べて内容の熟度が劣る事業が提案される可能性があるため、昨年度は実施しなかった。今年度も当初より追加募集は実施しないこととしていたが、新型コロナウイルスの影響により活動の見通しが立たないことや、今年度は地域活動支援事業自体がないものと思い、提案できなかったという声が聞かれたため、追加募集を実施することとした。

【服部委員】

本日の資料 3 に、平成 28 年から平成 30 年は追加募集を実施したと記載されている。この当時は地域協議会から地域団体へ声掛けを行って実施を決めたのか。

【藤井係長】

追加募集については採択決定後に配分額に残額が生じた場合に検討する。追加募集の実施を検討する段階では、特定の団体への声掛けは行っていない。実際に提案が出てくるかどうか分からない中で広く提案を募集し、その結果提案された事業を採択したということである。

【川上会長】

過去には追加募集を実施すると決定し、秋頃に追加提案の事業を採択したことがある。すでに当初募集で提案している団体が別の事業を提案したと記憶している。

【川上 俊一委員】

過去に追加募集をした際の実績として、すでに提案している団体ではなく、新規の団体から提案があったことはあるか。

【川上会長】

事務局で回答できるか。

【藤井係長】

新規の団体ではなく、すでに提案している団体から別の事業内容で提案があったように記憶しているが、詳しい資料が手元にないため、後日正式に回答する。

【川上会長】

他に何かあるか。

(発言なし)

次に審査について振り返る。今年度の9件の提案については例年どおりの進め方で、まず事前に配布された提案書を見て仮採点を行った。その後ヒアリングを行い、同日に審査・採択すべき事業を決定し、全事業を提案どおり採択した。他の区ではヒアリングに代えて書面での質問・回答を行った区もあったようだ。審査方法について、来年度に向けて改善すべき点や、審査した感想等、意見のある委員は発言願う。

【山岸 愛委員】

書面だけでは分からない内容もあるため、ヒアリングを実施することで提案者から直接話を聞くことができて良かった。当日は質疑応答もあり、皆が納得して進めることができた。時間も予定より短縮でき、結果的に良かったと思う。

【川室委員】

初めてだったが、採択のまでの一通りの流れを知ることができた。ヒアリングでは提案者から直接話を聞くことができ、特に審査が初めてだったため分かりやすかった。

【山田 勝也委員】

私も初めての経験だったが、やはりヒアリングを実施して良かった。書面では内容が理解できない部分があると思う。ヒアリングの時間も昨年度は長かったと聞いていたが、スムーズに進んだので良かった。

【山岸 真也委員】

私は皆さんの意見とは逆である。ヒアリングの内容は、すでに提案書に記載されている内容のとおりであると感じた。ヒアリングの基本的な流れについては理解したが、

直接説明を聞きたい・質問したい事業の提案者のみヒアリングを実施することでもよいと思った。

【山田副会長】

私も同じ考えである。ヒアリング自体はとても良いことだと思うが、事業概要は提案書で理解しているため、質問だけに特化したかたちで実施し、時間を有効に使えばもっと話を引き出せたように思う。逆に私もヒアリングを受けたことがあるが、提案事業に対して想いがあっても限られた時間で伝えることは難しい。やはりそこは文面で伝えて、当日は委員からの質問にのみ答えるという方法のほうが、より内容の濃いヒアリングになると思う。

【川上会長】

ヒアリングについて様々な意見が出たが、来年度の参考にしたい。その他、地域活動支援事業の全般に関して、意見や感想がある委員は発言願う。

【西嶋委員】

地域の団体にとっては、地域活動支援事業の補助金は非常にありがたいものだと思う。諏訪地区の活性化のために各団体の皆さんが活動している。地域協議会としては、各団体が補助金を上手に使って活動できるようにサポートできたらよいのではないかなと思う。諏訪地区のために活動しているが、地区外に住んでいるため活動が制限されてしまうという話を聞いたことがある。諏訪地区の活性化のために上手に活用していただきたいので、何かサポートできたらと思う。

【川上会長】

せつかくの配分額であるのもっと諏訪地区のために活用していただきたい。我々委員も地域の団体をサポートしてアドバイス等ができれば一番良いと思うが、なかなかできていないのが現状である。

他に意見はあるか。前は欠席であったが星野委員より何かあるか。

【星野委員】

前回の会議で追加募集は実施しないことに決まったと聞いた。個人的には、追加募集を実施して有効活用できればと思っていた。また、資料 1 の評価結果の参加性の項目を見ると最高点が 5 点、最低点が 1 点の事業が見受けられる。もっと参加性の高い提案があれば、もう少し地域が活性化するのではないかなと思った。

【川上会長】

せつかくの配分額であるため諏訪地区のために活用していただきたかったという意見である。また採点結果に委員ごとの差があることについては、各委員の考えで採点しているため、自分からは何も言えないが、事務局はどのように考えるか。

【藤井係長】

委員それぞれの考えで採点していることが理由だと思うが、皆さんが何を重視して審査するかによってこの差が出ているのだと思う。もしこの差を近づけていくのであれば、事業に対する評価や課題を共有する機会を持てば、少し変わる可能性はある。ただ、採点は委員それぞれの評価であるため、今の状態でも特段問題はないと思う。先ほど参加性の高い提案を求めたいという意見もあったが、例えば区によっては審査で重視したい項目を倍の点数にするなどの傾斜配点をしている区もある。どのような事業を求めるかによって、採択方針の中に特に募集したいテーマを設定することも可能であるため、その辺りは年明け頃に予定する来年度の採択方針等を決定する際にまた検討いただきたい。

【川上会長】

採点は皆さんの主観で行っているため、多少の開きが出ることは仕方がないと思う。今回の評価を見ると全体的に今までにないような高得点であると思う。参加性についてはそれぞれの捉え方があると思うが、その辺りは事務局から話があったとおりに今後検討していきたい。

【山岸 愛委員】

星野委員の考え方もなるほどと思ったが、正直これから追加募集をしたところで、短い時間で団体が事業内容を考えて事業を実施することが厳しいと思う。本来ならば有効活用したいお金であるが、無理やり捻り出した事業に税金を使うのはもったいないと思う。以前から感じていることは、諏訪地区の活動は地区の内部だけでやっているものが多く、他の地区のように区外の人にも来て楽しめるようなイベント等ができれば良いと思う。様々な繋がりができれば参加性の評価も上がってくるかもしれない。ただ、それをするには人材の面で課題がある。前期の地域協議会では、誰かに声をかけて事業を興し、新しく誰かを呼び込むというところまでのエネルギーを割けなかった。今回の委員の改選により、前回とは違うネットワークがそれぞれにあると思う。

来年の地域活動支援事業の募集までは時間があると思うので、今回のように残額が出ないように、もう少し広い眼で諏訪以外の人たちに諏訪を知ってもらい、諏訪はいいところだと思ってもらえるような事業や活動を増やしていけたらと改めて思った。

【川上会長】

諏訪の中だけでいろいろなことをやるのではなく、もっと外にも発信して諏訪区をアピールしてはどうかという意見だった。今までの地域協議会ではそこまでできなかったため、皆さんからもどんどん声を掛けていただきたいと思う。他に何かあるか。

【服部委員】

現状の9つの提案団体だけで配分額を使い切るのは難しいと思う。また事業の募集期間も短いように感じるため、事前に団体へ声掛けを行うことも必要だと思う。

【川上会長】

本日いただいたご意見は、年明け頃に行う令和3年度に向けた採択方針等の検討において改めて協議する。以上で「(1) 協議事項」の「① 今年度の地域活動支援事業の審査の振り返りについて」を終わる。

次に「(1) 協議事項」「② 今後の取組について」の「1) 諏訪区の概要について」に入る。事務局から説明願う。

【藤井係長】

- ・資料2・3に基づき説明

【川上会長】

今ほどの説明について質疑を求める。

(発言なし)

資料3に平成28年度の配分額が480万円で、11件の提案があり、提案額の599万9千円のうち採択額が480万円と記載されているが、これは追加募集を実施した後の金額か。

【藤井係長】

詳しい資料が手元にないが、当初募集で配分額に達していれば追加募集できないため、資料記載の金額は追加募集後の金額であると思う。

【川上会長】

当時のことを記憶している委員はいるか。

【川上 奈津子委員】

確か、諏訪区防災士会がたくさんの AED の整備を提案し、提案額が配分額を極端にオーバーした際に、審査において大幅な減額となり、その結果残額が生じて追加募集を実施したと記憶している。

【堀川委員】

資料 3 に雄志中学校生徒との意見交換会を実施したとあるが、具体的にどのようなことをしたのか。

【川上会長】

事務局より回答できるか。

【藤井係長】

当時の資料を持ち合わせていないため後日回答する。

【山岸 愛委員】

雄志中学校区の津有区・高士区・諏訪区の 3 区の地域協議会委員が津有地区公民館に集まって、まずは中学生から、地域のために行っているごみ拾いの活動について発表を聞かせてもらったと記憶している。その後 3 区の地域協議会委員と中学生を交えたいくつかのグループに分かれてディスカッションを行い、中学生の活動を踏まえて今後どういうことをしていくかや、自分たちで何ができるかについて意見を出し合った。その中では、例えば、子どもたちがごみ拾いを通じて感じた地区の良いところを写真に撮って掲示したらどうかという新しい意見が出た。平成 28 年・29 年に実施したが、その後はスケジュール的に忙しく実施できていない。また機会があれば、実施したいと思いながら現在に至っている。大まかな内容はこのような感じである。

【川上会長】

中学生のごみ拾い活動や花いっぱい運動についても発表を聞いたと記憶している。意見交換の中で、中学生は、雄志中学校区は非常に良いところだから将来は戻ってきたいとは話していたと思う。なかなかこのような機会はないため非常に有意義な会であったが、それ以降はスケジュールの都合で実施できていない。皆さんから実施したいのご意見をいただければ、今後事務局と相談したいと思う。

また資料 2 に諏訪区の公の施設が記載されているが、これについては次回の協議会で、市の担当課から公の施設の再配置計画について説明がある。次回よく聞いていた

だきたい。

資料3には過去の提案団体が記載されているが、あまり新しい団体が出てこないため残念である。皆さん活発に活動していると思うが、この辺も今後の課題にしていきたい。平成29年度は提案件数が非常に多く、例年の提案に加え、雄志中学校区青少年育成会議から3区に渡る提案があった。また昨年度は、諏訪幼年野球と上越セパタクロークラブが、子どもの減少により、合同でくびき野諏訪スポーツクラブとして提案している。今年はその提案がなかったことと、雄志中学校区青少年育成会議からの提案があったことで、提案件数は昨年度と同数である。他に意見はあるか。

(発言なし)

以上で「② 今後の取組について」の「1) 諏訪区の概要について」を終わる。

続いて「2) 自主的審議について」に入る。事務局から説明願う。

【藤井係長】

- ・参考資料に基づき説明。

【川上会長】

今ほどの説明について質疑を求める。

(発言なし)

日本全体が人口減少の傾向にあるということで、確か前々期の地域協議会から人口減少対策について自主的審議を行ってきた。前期の地域協議会はそれを引き継ぎ、審議を続けた結果として「移住促進諏訪の会」の立ち上げに至った。このように、これまでは人口減少をどうしたら食い止められるかについて協議してきた。今後はこれを引き継ぐこともよいが、地区の課題はいろいろあるため、新しいことについて協議を行うこともよいかもしれない。今後皆さんからご意見をいただいて進めていきたい。

それでは今後の自主的審議の進め方のヒントとするため、これからどんなことをしたいか、現時点での皆さんの意見をお聞かせ願う。自主的審議といっても分かりにくいかもしいれないが、前回地域活動支援事業の審査を無事に終え、これからは地域をどのように良くしていくかについてご意見をいただき、検討していきたい。本日何かを決めるわけではないため、自由に発言願う。

【堀川委員】

初めてであるため、前回までのテーマがよく分かっていないが、やはり少子高齢化

が諏訪地区にとっても大きな問題になっていると思う。今までもこの問題について取り組んでいたということなので、引き続き対策を打っていく必要があると思う。そのためには移住促進は必要なことで、大変難しいことだとは思いますが、若い人を増やしていかなければ高齢化も防げないと思うし、諏訪小学校の児童が減っているということもあるので、私はぜひこの問題に取り組んでいきたいと思っている。

【川上会長】

引き続き移住促進について審議してはどうかとの意見であった。これはもう日本全体の問題であり、これから人口を増やすのは難しく、減少のスピードを遅らせることしかできないのが現実だと思っているが、本日テーマを決めるわけではないので、自由にご発言いただきたい。他に諏訪区の問題点があれば、それについて審議していくことも可能である。

【山岸 真也委員】

今まで8年間移住促進について審議されてきた成果はどのようなものか。

【川上会長】

「移住促進諏訪の会」の活動について説明する。これまでは、移住促進に取り組んでいる先進地の視察を行った。昨年は能登の七尾市へ行った。諏訪区と同じような規模の地域で、山に囲まれて周りは田んぼだけで学校も廃校になってしまったということだが、住民が一生懸命に様々な計画を立てたことで、移住者が増えてきたということであった。その他、須坂市や身近である信濃町を視察した。視察はいろいろ行ったが、空き家調査などの実質的な活動はなかなかできていない。過去に、実際にしばらく住んでもらい諏訪を知っていただく「お試しハウス」を作りたいとの話があり、そういう家を探そうと動いてはいたが、本格的にはそこまで活動できていない。ホームページに年2回の会報を出して周知はしているが、今のところ問い合わせは2件程度である。実際はまだそれほど進んでいないため、今年はまだ本格的にやらなければという話はしていたのだが、コロナの影響でまだ総会もできてない状況である。自主的審議とは別でもよいのだが、機会があればこの会議に「移住促進諏訪の会」を呼んで話を聞くことも可能である。実際はなかなか進んでいないのが現状なので、今後とも皆さんから協力していただきたい。

【堀川委員】

先ほどの自分の発言は、移住に特化してほしいという意味ではなく、少子高齢化について十分に話し合いたいということである。移住についてはその後検討することによい。

【川上会長】

少し先走ってしまった。まずは少子高齢化について審議していきたいとのご意見であった。いろいろな課題があるためじっくり考えていきたい。他に意見はあるか。

【服部委員】

皆さん自分の町内のことはある程度分かると思うが、実際のところ他の町内のことは分からないと思う。そのため、町内会長との意見交換を真っ先に行い、各町内会の問題点を吸い上げて、それから考えることでもよいと思う。

先ほどから話に出ている移住に関しては、視察等いろいろ活動されているとは思いますが、例えば移住希望者がいたときに、どこの町内の土地が空いている等の情報は掴めていないと思う。その辺も含めて意見交換は重要と考える。

【川上会長】

町内会長との意見交換を実施してはどうかとの意見であった。確かに今までやったことがないため、今後検討していきたい。

【川上 俊一委員】

私も諏訪区の問題点で最初に思い浮かぶのは、やはり少子高齢化や人口減少の問題である。他に問題といってもこれといって思い浮かばない。実際、何を審議したらよいかについては、町内会長や地元の方の意見をお聞きしながらテーマを決めてはどうかと思う。

【川上会長】

課題が思い浮かばないということは、それだけ諏訪区がいいところだということである。皆さんの意見をまとめると、やはり少子高齢化について問題意識があり、まずは町内会長や地域団体との意見交換で意見を吸い上げ、課題について審議していきたいとのことである。本日の意見を踏まえ、正副会長と事務局で今後の進め方について協議し、改めて相談する。

以上で、「② 今後の取組について」の「2) 自主的審議について」を終わる。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局に説明を求める。

【藤井係長】

- ・ 次回の協議会について説明

【川上会長】

－ 日程調整 －

- ・ 次回の協議会：9月2日（水）午後7時 諏訪地区公民館 集会室
- ・ 内容：
 - ・ 公の施設の再配置計画について
 - ・ 自主的審議について
- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部自治・地域振興課中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mailchubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。